

〔嫁入記〕よめ入の條々

一 かもじは、むかしはたけもさだまり候やうに申候つれども、みてよきやうに候返々かもじのたけは、一丈やく二尺ほどたまるほどに、これはこの忍さまの御ふくろさまへぎよいを忍たまつり候。

〔女中作法之書〕

一 かもじかけといふは、十五歳よりちうのかもじをかくる也。かけやうは、かみをよくすべらかして、七のゆの通にて兩ほうよりよせてちうを入、下をもとゆひにて下ゆひをして、そのうへにひらもとゆひを二重まはしゆひてはしをはねる也。○中

一 長かもじかけやうの事、十六歳よりかけ申也。上らうには、ひたい口よりつちまでわけめを一つたて、兩のびんを前へたれて、殘髪をうしろへすべらかす也。○中

一 長かもじは、びんそぎせざる前は、かけぬものなり。○中

一 長かもじの事、中らうの方までは、かけらる、なり、ゆるされ候へば、かよひのかたぐもかくるなり。○下

〔女房衣装次第〕一 鬘の長さの事、人のたけにより不相定候。かけて下へあまる分一尺二寸と也。人の前へ出候て、宮仕候時は、かもじをば引てつかはる、也。我人のかもじをふまぬやうに嗜べし。又人の見ぬ所にては、かもじの中程より下を左の手にかいたりて、一まとひして持也。

〔諸家奥女中袖鏡〕髪化粧の事

一 垂髪とは、すべらかしさげ髪の事にて、髪の元を結ばす後へ下げ、長かもじを入るなり、

一 根結び下がみとは、元を人々の心のまゝに鬘を出し、根ゆひして、其元に長かもじ、又は中かもじを入れて粧ふなり。○中

一 ふかそぎより振り分髪として、肩より下までさげ置くなり。○中